

最近導入のイワタバコ科植物について

世 羅 徹 哉

近年、アメリカから導入したイワタバコ科植物のうち、園芸的に重要と思われる2原種、および、7園芸品種の開花に成功したので記録、紹介する。

Paradrymonia decurrens (C. V. Mort.)

Wiehler

本属は、着生または半着性の常緑草本植物で、現在約50種が中南米の熱帯地域から報告されている。このうち10種前後が、観賞用に栽培されている。

本種は、1979年に種子で導入したもので、1984年1月に初めて開花した。茎は、高さ約30cmになり、基部はやや木質化する。葉は、20~30枚が密に対生するが、一方が退化して小さくなっている場合がある。表面は鮮濃緑色で、長さ29cm、幅9cm。葉柄は10cmあり、その基部から葉底部にかけてS字曲線を描いて葉先が下垂する。花は1~8個が1ヶ所に腋生し、茎の下部から上部に向かって次々に咲く。小花柄は約2cm。花

色は乳白色で、全体に赤褐色毛を粗生する。筒状部は長さ4cm、直径1cm。花冠は5裂し、径は2.0~2.5cm。5裂片のうち最大の唇形裂片の縁には、長さ2~3mmの毛状物がある。1花の寿命は、約2日と短い、1茎に30~50花付くので長期にわたって観賞できる。以上のように本種は、花も観賞できる観葉植物として重要な原種と思われる。なお、栽培に当っては、高温多湿な環境が必要である。

Achimenes cettoana H. E. Moore

本種は、1983年5月に鱗茎を導入し、1984年6月に初めて開花した。茎は細く、高さ約25cm。葉は、3~4輪生し、長さ3~5cm、幅1cmの線状披針形で、先端側半分には粗い鋸歯がある。表面は鮮緑色で、粗毛がある。花は葉腋に単生し、筒状部は、長さ3~4cmで淡青紫色。花冠部は、長径3~3.5cmで青紫色。メキシコ原産の本種は、現在日本に導入されている本属の他の品種に比べ草質が軟かく、草姿、花色ともに清楚で野趣に富んでいる。また、全体にコンパクトで、作りやすく、園芸的に価値の高い種と考えられる。

園芸品種については表1に示す。



P. decurrens



A. cv. Camille Brozzni



A. cv. Crimson Beauty

表1 最近導入のイワタバコ科植物

植 物 名	花 期	花 の 特 徴			そ の 他 の 特 徴	導 入 年
		花 色 (花冠部 筒状部)	花冠の長径 (cm)	筒状部の長さ (cm)		
<i>Achimenes</i> cv. <i>Camille Brozzni</i>	夏	淡紫色 黄褐色+茶色斑紋	4.0~4.5	4.0	基部からよく分枝し、高さ約30cm。花付きが良い。	1983
A. cv. <i>Crimson Beauty</i>	〃	鮮濃紅色 鮮紅色	4.5	4.0	花弁に細鋸歯があり、周縁はフリル状になる。	〃
A. cv. <i>Yellow Beauty</i>	〃	淡黄色 淡黄色	3.0~3.5	3.5	茎は伸長が速く、徒長しやすいが花付きが良い。	〃
<i>Eucodonia andrieuxii</i> cv. <i>Frances</i>	夏~秋	青紫色 淡紫色	2.5	2.0	株の高さは約8cm。最大葉の長さ14cm、幅7cm。全体に赤褐色毛がある。	1982
<i>Gloxinia</i> cv. <i>Arion</i>	〃	紫色 淡紫色	3.0~3.5	4.5	高さ約50cm、茎頂の穂状花序に10~20花つける。葉裏が赤褐色になる。	〃
G. cv. <i>Medusa</i>	〃	紅紫色+紅色斑点 紅紫色	3.0	4.5~5.0	草質は軟かく、全体に長軟毛を密生する。葉は淡緑色。	1983
<i>Kohleria</i> cv. <i>Rongo</i>	不 定 期 (主に冬~春)	濃紅紫色+濃紅色斑 濃紅紫色	3.0	4.5~5.0	葉は黄緑色で、脈に沿って茶褐色の斑がある。	1982